

愛媛県の給与・定員管理等について

1 総括

(1)人件費の状況(普通会計決算)

人件費には、一般職の職員（警察関係職員、教育関係職員及び一般行政関係職員をいう。以下同じ。）に支給する給与と、特別職の職員に支給する知事等特別職の給与、議員の報酬及び期末手当並びに委員等報酬のほか、地方公務員共済組合負担金、退職手当、恩給及び退職年金、災害補償費等が含まれています。

平成 25 年度における普通会計の決算による人件費の状況は、以下のとおりです。

区 分	住民基本台帳人口 (平成 26 年 1 月 1 日)	歳 出 額 (A)	実 質 収 支	人 件 費 (B)	人件費率 (B/A)	平成 24 年度 の人件費率
平成 25 年度	人 1, 427, 866	千円 615, 451, 031	千円 1, 788, 347	千円 165, 155, 663	% 26. 8	% 29. 4

(2)職員給与費の状況(普通会計決算)

平成 25 年度における普通会計の決算による職員給与費の状況は、以下のとおりです。

区 分	職 員 数 (A)	給 与 費				1 人当たり 平均給与費 (B/A)	(参考) 都道府県平均 1 人当たりの給与費
		給 料	職 員 手 当	期末・勤勉手当	計 (B)		
平成 25 年度	人 18, 948	千円 79, 411, 771	千円 13, 789, 302	千円 29, 812, 877	千円 123, 013, 950	千円 6, 492	千円 6, 875

注 1 職員給与費とは、人件費のうち、一般職の職員に対して支給される給料及び扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当、期末・勤勉手当等の諸手当に要する経費であり、退職手当に要する経費は、含んでいません。

2 職員数は、平成 25 年 4 月 1 日現在の人数です。

3 給与費については、任期付短時間勤務職員（再任用職員（短時間勤務））の給与費が含まれており、職員数には当該職員を含んでいません。

(3)特記事項

平成 26 年度の知事等特別職の給与の臨時的な減額措置は、以下のとおりです。

○特別職

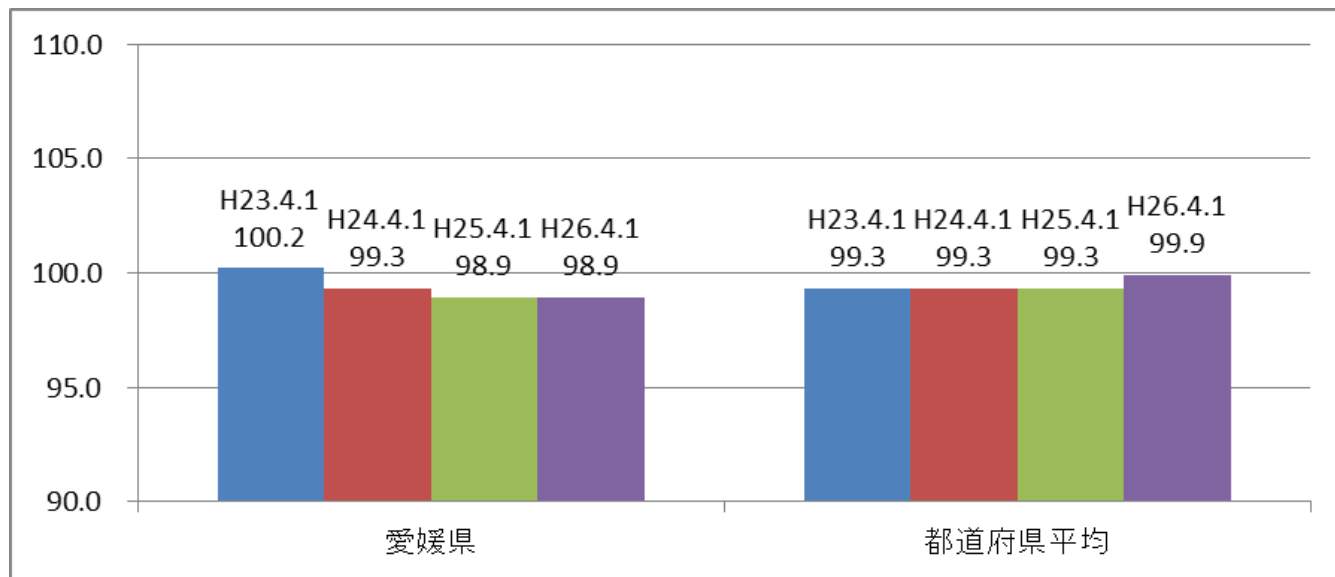
区 分	給 料	期末手当
知 事	25/100	減額後の給料の月額による額
副知事	15/100	
教育長、公営企業管理者、常勤監査委員	12/100	

(4)ラスパイレス指数の状況

ラスパイレス指数とは、各地方公共団体の学歴別・経験年数別の職員数が国家公務員のそれと同じであると仮定し、その職員数に各地方公共団体の平均給料月額を乗じて得られる給料総額が国家公務員の給料総額に対してどのような割合になるかを示す指数ですが、本県ラスパイレス指数は、本県の一般行政職の給与水準を、国家公務員の行政職俸給表(一)適用者のそれを100として比較したものです。

本県の平成26年4月1日におけるラスパイレス指数は、98.9と国よりも低くなっており、都道府県平均(99.9)を1.0ポイント下回っています。

なお、給与水準の比較対象となる給料に加えて、東京都特別区など主に民間賃金の高い地域に勤務する職員には、最大18%の地域手当が支給されており、支給対象職員の割合は、国家公務員が71.2%(25年4月1日現在)であるのに対し、県職員は0.3%(26年4月1日現在)となっていますが、このラスパイレス指数には反映されていません。



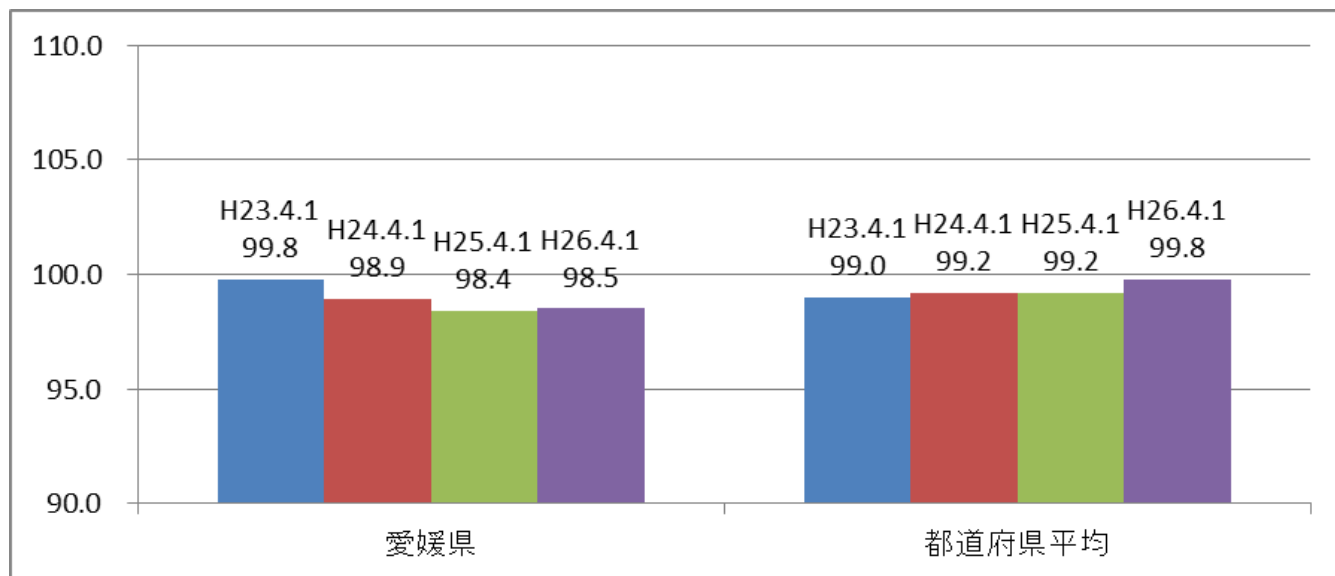
注1 ラスパイレス指数とは、全地方公共団体の一般行政職の給料月額を同一の基準で比較するため、国の職員数(構成)を用いて、学歴や経験年数の差による影響を補正し、国の行政職俸給表(一)適用職員の俸給月額を100として計算した指数です。

注2 平成24年及び平成25年は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定・臨時特例法による給与減額措置がないとした場合の値です。

(5)パーシェ指数の状況

県職員の給与水準を示す指標として、ラスパイレス指数の他にパーシェ指数があり、本県の平成26年4月1日におけるパーシェ指数は、98.5と国よりも低くなっています。

なお、ラスパイレス指数は国家公務員の職員構成を基準として算出するのに対して、パーシェ指数は本県の職員構成を基準として算出するもので、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数です。



(6)給与改定の状況

平成 26 年度については、県人事委員会の勧告を受け、県職員給与と民間給与の較差を是正するため、「月例給」及び「特別給」を次のとおり改定しました。

①月例給

区 分	人事委員会の勧告				給与改定率	(参考) 国の改定率
	民間給与 A	県職員給与 B	較差 A-B	勧告 (改定率)		
平成 26 年度	円 382, 586	円 381, 819	円 767 (0. 20%)	% 0. 20	% 0. 20	% 0. 27

注 「民間給与」、「県職員給与」は、人事委員会勧告において公民の 4 月分の給与額をラスパイレス比較した平均給与月額です。

②特別給（期末・勤勉手当）

区 分	人事委員会の勧告				年間支給月数	(参考) 国の年間 支給月数
	民間の支給割合 A	県職員の支給 月数 B	較差 A-B	勧告 (改定月数)		
平成 26 年度	月 4. 09	月 3. 95	月 0. 14	月 0. 15	月 4. 10	月 4. 10

注 「民間の支給割合」は、民間事業所で支払われた賞与等の特別給の年間支給割合です。また、「県職員の支給月数」は、期末手当及び勤勉手当を合計した年間の支給月数です。

(7)給与制度の総合的見直しの実施状況について

①給料表の見直し

平成 27 年 4 月 1 日から、一般行政職員の給料表について、平均△2. 38%（最高△4. 36%）の見直しを行いました。
給料表見直しの経過措置(現給保障)は、3 年としています。

②地域手当の見直し

地域手当の支給割合について、平成 27 年度は国と同じ基準で見直しを行いました。
国と同様、平成 30 年 3 月 31 日まで段階的に実施することとしています。
【参考】東京都特別区：18%→20% 大阪府大阪市及び医療職給料表（一）適用者：15%→16%

③その他の見直し内容

・単身赴任手当

単身赴任手当の支給額について、平成 27 年度は国と同じ基準で見直しを行いました。
国と同様、平成 30 年 3 月 31 日まで段階的に実施することとしています。

【参考】基礎額：23, 000 円→30, 000 円 距離加算上限額：45, 000 円→70, 000 円

・管理職員特別勤務手当

管理職員特別勤務手当の支給対象業務に平日深夜業務を追加しました。

2 職員の平均給与月額、初任給等の状況

(1)職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況(平成 26 年4月1日現在)

平成 26 年 4 月 1 日現在における職員数（企業会計関係職員 1,991 人及び再任用短時間勤務職員 380 人を含まない。以下（2）及び（3）において同じ。）は、18,815 人です。

このうち、代表的な職種である一般行政職（行政職給料表適用者のうち、税務事務に従事する職員及び船員（以下「税務職員等」という。）を除いた職員をいう。以下(2)及び(3)において同じ。） 3,995 人（21.2 パーセント）、技能労務職 265 人（1.4 パーセント）、高等学校（特殊・専修・各種）教育職 3,276 人（17.4 パーセント）、中学校・小学校教育職 7,954 人（42.3 パーセント）及び公安職 2,435 人（12.9 パーセント）の職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況は、以下のとおりです。

①一般行政職（行政職給料表適用者(税務職員等を除く。))

区 分	平 均 年 齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
愛 媛 県	44.8 歳	347,490 円	440,901 円	380,769 円
国	43.5 歳	335,000 円	—	408,472 円
都道府県平均	43.4 歳	335,401 円	421,368 円	375,393 円

②技能労務職（技能労務職に係る給料表適用者）

区 分	公務員					民間			参考
	平 均 年 齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A)	平均給与月額 (国比較ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)	A／B
愛 媛 県	50.1 歳	265 人	332,322 円	371,574 円	351,038 円	—	—	—	—
うち 学校給食員	48.4 歳	15 人	324,880 円	355,927 円	345,914 円	調理士	44.6 歳	211,500 円	1.68
うち 用務員	49.4 歳	117 人	328,789 円	371,077 円	347,950 円	用務員	54.3 歳	199,300 円	1.86
うち 自動車運転手	53.9 歳	41 人	339,330 円	377,095 円	355,988 円	自家用乗用自 動車運転者	55.9 歳	201,000 円	1.88
うち 電話交換手	48.4 歳	8 人	305,589 円	324,466 円	312,839 円	—	—	—	—
国	50.1 歳	3,119 人	287,992 円	—	326,611 円	—	—	—	—
都道府県平均	51.2 歳	282 人	331,881 円	387,064 円	364,062 円	—	—	—	—

区分	参考		
	年収ベース（試算値）の比較		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
愛媛県	—	—	—
うち 学校給食員	円 5,693,324	円 2,777,600	2.05
うち 用務員	円 5,932,724	円 2,747,000	2.16
うち 自動車運転手	円 6,144,640	円 2,791,900	2.20
うち 電話交換手	—	—	—

- ※ 民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用しています。（平成23～25年の3ヵ年平均）
- ※ 民間データのうち、「学校給食員」、「自動車運転手」は、公表されている愛媛県データを使用しています。なお、「用務員」は都道府県別のデータが公表されていないため、全国計データを使用しています。
- ※ 技能労務職の職種と民間の職種等の比較にあたり、年齢、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではありません。
- ※ 年収ベースの「公務員（C）」及び「民間（D）」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与その他特別給与額を加えた試算値です。

③高等（特別支援・専修・各種）学校教育職（高等学校等教育職員給料表適用者ほか）

区 分	平 均 年 齢	平均給料月額	平均給与月額
愛媛県	43.5歳	380,293円	431,512円
都道府県平均	44.8歳	383,450円	443,343円

④中学校・小学校（幼稚園）教育職（中学校・小学校教育職員給料表適用者）

区 分	平 均 年 齢	平均給料月額	平均給与月額
愛媛県	46.0歳	386,035円	422,814円
都道府県平均	43.5歳	368,928円	422,542円

⑤公安職（公安職給料表適用者）

区 分	平 均 年 齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国比較ベース)
愛媛県	38.3歳	319,661円	422,258円	339,075円
国	41.3歳	316,666円	—	367,707円
都道府県平均	38.8歳	321,974円	463,360円	366,254円

注1 「平均給料月額」とは、平成26年4月1日現在における各職種の職員の給料、給料の調整額及び教職調整額の合算額の平均であり、学歴、経験年数、職位等の要素は、考慮に入れていません。

2 「平均給与月額」とは、職員の給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、超過勤務手当などの諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものです。

また、「平均給与月額(国比較ベース)」は、比較のため、国家公務員と同じベース（＝時間外勤務手当等を除いたもの）で算出しています。

(2)職員の初任給の状況(平成 26 年4月1日現在)

平成 26 年 4 月 1 日現在における代表的な職種の職員の初任給を国のそれと比較した状況は、以下のとおりです。

区 分		愛 媛 県	国
一 般 行 政 職	大学卒	176,355 円	総合職（大卒）181,200 円 一般職（大卒）172,200 円
	高校卒	142,911 円	一般職（高卒）140,100 円
技 能 労 務 職	高校卒	137,789 円	—
	中学卒	122,122 円	—
高 等 学 校 教 育 職	大学卒	204,924 円	—
中 学 校 ・ 小 学 校 教 育 職	大学卒	204,924 円	—
公 安 職	大学卒	198,047 円	総合職（大卒）203,100 円 一般職（大卒）200,000 円
	高校卒	165,408 円	一般職（高卒）161,500 円

(3)職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況(平成 26 年4月1日現在)

平成 26 年 4 月 1 日現在における代表的な職種の職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況は、以下のとおりです。

区 分		経 験 年 数 10 年	経 験 年 数 20 年	経 験 年 数 25 年	経 験 年 数 30 年
一 般 行 政 職	大学卒	262,245 円	363,802 円	383,277 円	404,245 円
	高校卒	212,148 円	307,356 円	359,815 円	376,102 円
技 能 労 務 職	高校卒	—	274,450 円	304,486 円	333,973 円
	中学卒	—	—	—	—
高 等 学 校 教 育 職	大学卒	306,417 円	407,296 円	428,691 円	444,306 円
	高校卒	—	—	379,613 円	400,711 円
中 学 校 ・ 小 学 校 教 育 職	大学卒	301,472 円	392,591 円	414,232 円	430,107 円
	高校卒	—	—	—	—
公 安 職	大学卒	283,094 円	399,069 円	417,387 円	424,645 円
	高校卒	248,406 円	356,243 円	397,072 円	413,317 円

注 経験年数とは、おおむね次のとおりです。

- ① 学歴取得後直ちに本県へ就職した者 県職員として在職した年数
- ② 学歴取得後無職の期間又は他へ就職していた期間を経て本県へ就職した者 無職の期間の4分の1及び他へ就職していた期間のおおむね10分の8の期間と県職員として在職した期間とを合算した年数

3 一般行政職の級別職員数等の状況

(1) 一般行政職の級別職員数の状況(平成 26 年4月1日現在)

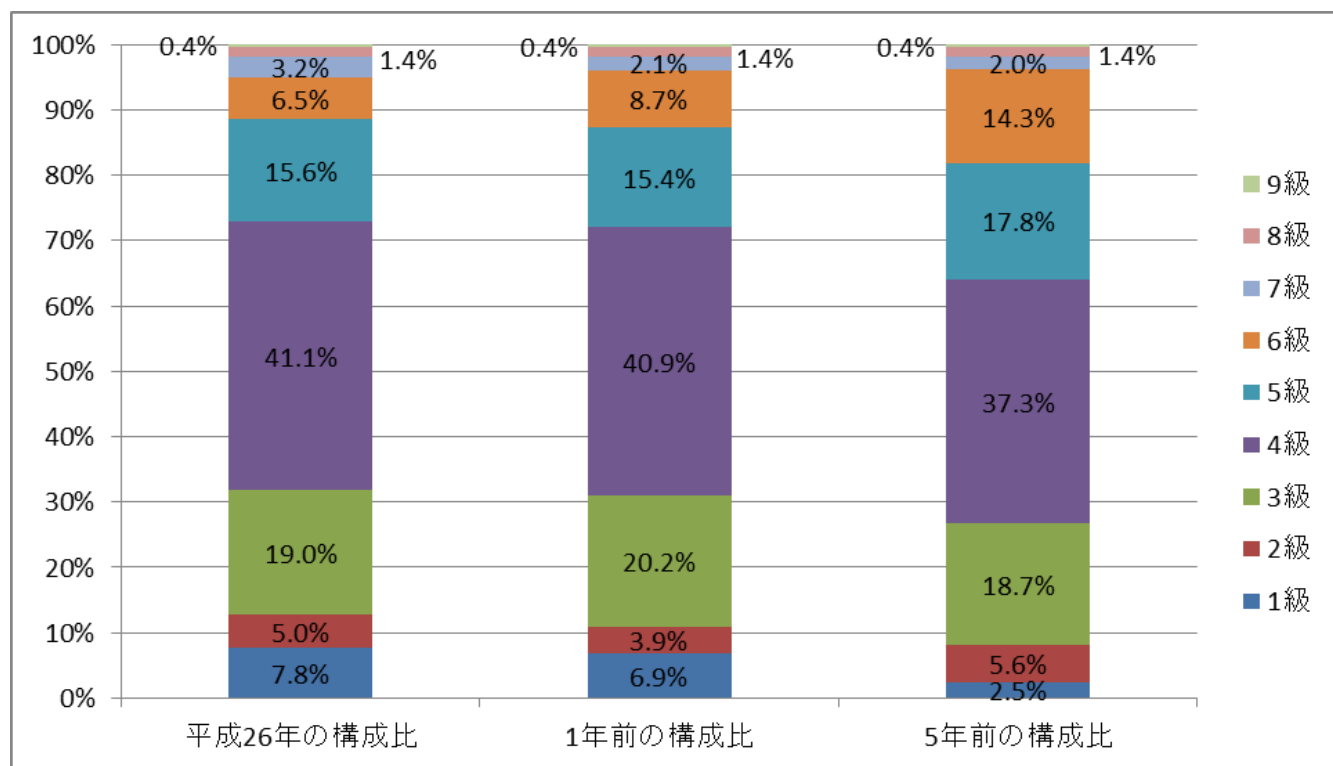
本県における一般行政職の職員に適用される行政職給料表は、職務により 1 級から 9 級までの 9 区分に分かれており、これらは、10級制となっている国の行政職俸給表(一)の 1 級から 9 級までの区分と同じです。

平成 26 年 4 月 1 日現在における級別職員数とその構成比は、以下のとおりです。

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比	1 号給の 給料月額	最高号給の 給料月額
1 級	主事・技師	310 人	7.8%	136,183 円	244,747 円
2 級	主事・技師	199 人	5.0%	186,598 円	309,123 円
3 級	主任・係長	759 人	19.0%	223,858 円	356,225 円
4 級	専門員	1,637 人	41.1%	263,026 円	389,969 円
5 級	課長補佐・主幹	620 人	15.6%	290,443 円	402,322 円
6 級	課長	258 人	6.5%	321,978 円	424,417 円
7 級	参事	129 人	3.2%	367,774 円	458,161 円
8 級	局長	56 人	1.4%	414,775 円	480,256 円
9 級	部長	17 人	0.4%	466,597 円	540,012 円
計		3,985 人	100.0%		

注 1 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職名です。

2 再任用職員は含んでいません。



(2)昇給への勤務成績の反映状況

地方公務員法第 40 条に基づき、毎年 12 月 1 日現在を評定日として全職員に対して勤務成績の評定を実施しています。

平成 18 年度からは、全職員について実績及び能力評価を行い、その評価結果に基づき昇給区分（A～E）を決定しています。

平成 27 年 1 月 1 日の昇給の状況は次のとおりです。

（知事部局の職員の昇給区分別人員分布率）

	A 区分	B 区分	C 区分	D 区分	E 区分	成績証明 なし
特定職員	10.9%	29.9%	58.2%	1.0%		0%
特定職員 以外の職員	4.8%	19.9%	70.7%	2.7%		2.0%

※ 特定職員：行政職給料表 7 級（国の行政職俸給表 7 級に相当する級）以上の適用を受ける職員

4 職員の手当の状況

職員には、基本給としての給料のほか、各職員の生活実態及び勤務条件の違い等を考慮して、各種の手当を支給しています。
主な手当は、以下のとおりであり、おおむね国と同じ内容となっています。
なお、各手当の支給実績及び1人当たり平均支給額は、平成25年度普通会計決算ベースの額です。

(1) 期末手当・勤勉手当

愛 媛 県		国	
1人当たり平均支給額（平成25年度決算） 1,572千円		—	
（平成25年度支給割合） 期末手当 2.6月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.35月分 (0.65)月分		（平成25年度支給割合） 期末手当 2.6月分 (1.45)月分 勤勉手当 1.35月分 (0.65)月分	
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置		（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置	

注1 特定幹部職員(局長級以上の職員)については、期末手当のうち0.4月分を勤勉手当に振り替えているため、期末手当2.2月分、勤勉手当1.75月分となっています。
2 ()内の数値は、再任用職員に係る支給割合です。

【参考】勤勉手当への勤務成績の反映状況（一般行政職）
業務の質・量及び達成度を踏まえ、期中及び期末における評価を実施し、その評価結果に基づき、成績率を決定しています。
平成26年12月の勤勉手当の状況は次のとおりです。

（知事部局の特定幹部職員） 一般行政職給料表適用者

	標準より上位区分	標準
成績率	114.5／100	99.5／100
人員分布率	35.94%	64.06%

※特定幹部職員：行政職給料表8級以上で管理職手当の支給区分が1種の職を占める職員

（知事部局の特定幹部職員以外の職員） 一般行政職給料表適用者

	標準より上位区分			標準	標準より 下位区分
成績率	114.5／100	104.5／100	94.5／100	79.5／100	74.0～51.5／100
人員分布率	29.36%			69.04%	1.60%

※判定期間の全ての期間を勤務していない者（病気休暇の取得等）は除く。

(2) 退職手当(平成26年4月1日現在)

愛 媛 県			国		
（支給率）	自 己 都 合	勸奨・定年	（支給率）	自 己 都 合	勸奨・定年
勤続20年	21.62月分	27.025月分	勤続20年	21.62月分	27.025月分
勤続25年	30.82月分	36.57月分	勤続25年	30.82月分	36.57月分
勤続35年	43.7月分	52.44月分	勤続35年	43.7月分	52.44月分
最高限度額	52.44月分	52.44月分	最高限度額	52.44月分	52.44月分
その他の加算措置			その他の加算措置		
退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた8段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から60月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置（2～20％加算）			退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた11段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から60月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置（2～45％加算）		
1人当たり平均支給額	6,546千円	23,729千円			

注 1人当たり平均支給額は、平成25年度中に退職した職員に支給された額の平均です。

(3)地域手当(平成 26 年4月1日現在)

地域手当は、民間賃金の地域間格差を適切に反映するため、東京都特別区及び大阪府大阪市に勤務する職員に対して支給しているものです。また、医師の採用を容易にするためにも支給しています。加えて、東日本大震災に係る宮城県の復旧事業等に従事するため、地方自治法第 252 条の 17 の規定に基づき、愛媛県から宮城県に派遣される職員について、愛媛県と宮城県の協定に基づいて支給しています。

支 給 実 績 (平成 25 年度決算)			47,478 千円	
支給対象職員 1 人当たり平均支給年額 (平成 25 年度決算)			847,821 円	
区 分	支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の支給率
医 師		15%	24 人	15%
医師以外	東京都 (特別区)	18%	25 人	18%
	大阪府 (大阪市)	15%	7 人	15%
	宮城県 (仙台市)	4.5%	2 人	6 %
地域手当補正後ラスパイレス指数 (ラスパイレス指数)				98.9 (98.9)

注 1 支給対象職員数は、平成 26 年 4 月 1 日現在の職員数です。

2 地域手当補正後ラスパイレス指数とは、地域手当を加味した地域における国家公務員と地方公務員の給与水準を比較するため、地域手当の支給率を用いて補正したラスパイレス指数です。

(補正前のラスパイレス指数×(1+当該団体の地域手当支給率)／(1+国の指定基準に基づく地域手当支給率)により算出。)

(4)特殊勤務手当(平成 26 年4月1日現在)

特殊勤務手当は、著しく危険、不快、不健康又は困難な業務に従事する職員に、その勤務の特殊性に基づき支給するものです。

支給実績 (平成 25 年度決算)		1,248,213 千円		
支給職員 1 人当たり平均支給額 (平成 25 年度決算)		108,493 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (平成 25 年度)		60.7%		
手当の種類 (手当数)		55		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (平成 25 年度)	支給単価
県税事務従事職員の特殊勤務手当	県税事務に従事する職員	納税義務者、滞納者等を訪問して行う県税の賦課及び徴収に関する業務等	1,483 千円	日額 500 円
伝染病防疫作業従事職員の特殊勤務手当	伝染病防疫業務に従事する職員	伝染病患者等の救護作業 伝染病菌の付着した物件等の処理作業 伝染病菌を有する家畜等の防疫作業	83 千円	日額 290 円
産業技術研究所、衛生環境研究所等に勤務する職員の特殊勤務手当	産業技術研究所、衛生環境研究所等に勤務する職員	①人体に有毒なガスの発生を伴う業務 ②特に危険性を有する薬品を取り扱う業務 ③病理細菌を取り扱う業務	2,182 千円	①日額 290 円 ②及び③日額 200 円
特殊現場作業従事職員の特殊勤務手当	特殊現場作業に従事する職員	①トンネルの坑内で従事するトンネル掘り作業 ②墜落の危険が特に著しい箇所で行う作業等	4 千円	①日額 560 円 ②日額 220 円
レントゲン技術従事職員の特殊勤務手当	レントゲン技術又はその補助に従事する職員	レントゲンを使用して、有害放射線の影響を受ける作業	279 千円	日額 230 円

児童相談所、子ども療育センター、知的障害者更生相談所及び心と体の健康センターに勤務する職員の特殊勤務手当	児童相談所、子ども療育センター、知的障害者更生相談所及び心と体の健康センターに勤務する職員	①児童の一時保護作業 ②児童及び精神障害者等の心理判定作業 ③重症心身障害児等の看護作業等 ④精神障害者等の看護作業等	9,546 千円	①日額 350 円 ②～④日額 420 円
児童自立支援施設に勤務する職員の特殊勤務手当	児童自立支援施設に勤務する職員	児童の自立支援又は生活支援の業務	6,124 千円	日額 820 円、1,480 円、2,220 円
県警察に勤務する職員の特殊勤務手当				
私服員の捜査、逮捕作業等手当	当該作業に従事する私服警察職員	犯罪予防、捜査、被疑者逮捕作業	89,190 千円	日額 560 円
犯罪鑑識作業手当	当該作業に従事する警察職員	指紋、手口、写真等を利用する犯罪鑑識作業	7,507 千円	日額 280 円又は 560 円
交通取締用自動車等運転作業手当	当該作業に従事する警察職員	交通取締用自動車その他特殊自動車運転作業	30,733 千円	日額 420 円又は 560 円
山岳捜索救難作業手当	山岳救助警備隊に属する警察職員	山岳において遭難事故が発生した場合において行う遭難者の捜索救難作業	49 千円	日額 840 円
警ら作業手当	当該作業に従事する警察職員	警ら作業	33,969 千円	日額 340 円
身辺警護等作業手当	当該作業に従事する警察職員	①天皇又は皇后、皇太子、皇太子妃、文仁親王若しくは悠仁親王の警衛作業 ②その他の要人等の警護作業	173 千円	①日額 1,150 円 ②日額 640 円
銃器犯罪捜査作業手当	当該作業に従事する警察職員	①銃器等が使用されている犯罪現場における被疑者逮捕等の作業 ②銃器を所持する被疑者の逮捕、警戒等の作業 ③保護対象者の身辺警戒又は固定警戒の作業	0 千円	①日額 1,640 円 ②日額 820 円又は 1,100 円 ③日額 820 円
ひき逃げ捜査作業手当	当該作業に従事する交通専務員	ひき逃げ捜査作業	1,796 千円	日額 560 円
交通取締等作業手当	当該作業に従事する交通専務員	①共同危険行為取締作業 ②交通取締り(①の作業を除く。)、整理及び事故処理作業	7,894 千円	①日額 560 円 ②日額 310 円
留置場等看守作業手当	当該作業に従事する警察職員	留置場等において収容者を看守する作業	4,503 千円	日額 230 円
被疑者護送作業手当	当該作業に従事する警察職員	被疑者護送作業	1,742 千円	日額 230 円
火薬類取締作業手当	当該作業に従事する警察職員	火薬類の取締作業(不発弾の処理作業を含む。)	10 千円	日額 250 円
夜間特殊作業手当	当該作業に従事する警察職員	夜間(深夜(午後10時から翌日の午前5時までの間)を含む時間)に従事する特殊業務	51,344 千円	1回 410 円、730 円又は 1,100 円
潜水作業手当	当該作業に従事する警察職員	潜水器具を着用して従事する潜水作業	25 千円	1時間 310 円又は 780 円
死体取扱作業手当	当該作業に従事する警察職員	①検視管理官が行う検視又は解剖立会いの作業 ②その他の死体取扱作業	25,646 千円	①1回 3,200 円 ②1回 1,600 円
爆発物処理作業手当	当該作業に従事する警察職員	爆発物処理作業	0 千円	1回 5,200 円

特殊危険物質処理作業等手当	当該作業に従事する警察職員	①特殊危険物質(サリン等)の処理作業 ②特殊危険物質による被害の危険がある区域内において行う作業 ③特殊危険物質が発生するおそれがある実験作業	0 千円	①日額 5,200 円 ②日額 250 円 ③日額 460 円
緊急業務処理作業手当	当該作業に従事する警察職員	正規の勤務時間外に突発的な事件又は事故の処理のため出勤を命じられ、夜間に従事する作業	4,566 千円	1 回 1,240 円
少年補導作業手当	少年補導職員	少年補導作業	395 千円	日額 310 円
災害警備等作業手当	当該作業に従事する警察職員	異常な自然現象又は大規模な事故により重大な災害が発生した箇所等において行う災害警備、遭難救助等の心身に著しい負担を与える作業	0 千円	日額 840 円
術科指導作業手当	当該作業に従事する術科指導員	術科指導作業（本務として従事する作業を除く。）	81 千円	1 時間 300 円
漁労手当	水産実習船に勤務する船員	漁労業務	1,737 千円	日 額 3,000 円 ～ 8,400 円
社会福祉業務従事職員の特殊勤務手当	社会福祉主事 身体障害者更生相談所に勤務する身体障害者福祉司 児童福祉司	要保護者等を訪問して行う指導等、身体障害者に面接して行う相談等又は児童等に面接して行う相談等の業務	2,659 千円	日額 510 円
精神保健指定医、診察立会職員及び精神障害者移送に従事する職員の特殊勤務手当	精神保健指定医、診察立会職員等	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく診察、立会又は移送の業務	33 千円	日額 320 円
職業訓練指導業務従事職員の特殊勤務手当	高等技術専門校に勤務する職業訓練指導員	職業訓練業務	2,473 千円	日額 790 円
と畜検査業務従事職員の特殊勤務手当	食肉衛生検査センターに勤務する職員	と畜場法による獣畜のとさつ又は解体の検査	2,391 千円	日額 1,180 円
麻薬取締業務従事職員の特殊勤務手当	麻薬取締員	麻薬及び向精神薬取締法による司法警察職員として従事する危険な職務	24 千円	日額 420 円
爆発物取締業務従事職員の特殊勤務手当	本庁爆発物取締主管課又は地方局に勤務する職員	火薬類取締法又は高圧ガス保安法に基づく完成検査、保安検査等の業務	38 千円	日額 250 円
漁業取締作業従事職員の特殊勤務手当	当該作業に従事する職員	漁業取締船に乗り組んで従事する漁業取締作業	1,047 千円	日額 500 円
夜間看護手当	子ども療育センターに勤務する看護師又は准看護師	正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜(午後10時から翌日の午前5時までの間)において行われる看護等の業務	11,565 千円	1 回 2,000 円 から 3,300 円 まで
家畜保健衛生所及び家畜病性鑑定所に勤務する職員の特殊勤務手当	家畜保健衛生所及び家畜病性鑑定所に勤務する獣医師である職員	家畜保健衛生所法による家畜の伝染病の予防、人工授精の実施等の事務	5,413 千円	日額 730 円 (BSE検査:810 円加算)
潜水手当	農林水産研究所水産研究センターに勤務する職員	海中の魚礁の状況、魚介類の育成状況等を調査するため、潜水器具を着用して行う潜水作業	45 千円	1 時間 310 円 又は 780 円

用地交渉等業務に従事する職員の特殊勤務手当	農林水産部農業振興局農地整備課、土木部管理局用地課、地方局産業経済部土地改良主務課及び治山主務課並びに地方局建設部（土木事務所を含む。）に勤務する職員	公共事業の施行に伴う土地等の取得及び権利の消滅等に伴う損失の補償等に関し、これらの権利者等と直接現地で行う交渉業務	2,940 千円	日額 650 円
身体障害者等福祉業務従事職員の特殊勤務手当	①身体障害者更生相談所に勤務する看護師等 ②婦人相談所又はさつき寮に勤務する職業訓練指導員又は生活指導員	①看護業務 ②職業訓練又は生活指導の業務	139 千円	日額 420 円
精神障害者等訪問指導業務従事職員の特殊勤務手当	保健所又は心と体の健康センターに勤務する保健師	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき精神障害者等を訪問して行う相談指導業務又は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく訪問指導業務	335 千円	日額 230 円
航空手当	当該業務に従事する職員	①航空機の操縦業務 ②航空機の整備等業務（整備士） ③航空機に搭乗して行う訓練等の業務（①及び②以外）	3,699 千円	① 1 時間 7,700 円 ② 1 時間 4,500 円 ③ 1 時間 1,900 円
災害応急作業等手当	土木部河川港湾局河川課及び港湾海岸課並びに道路都市局道路建設課及び道路維持課並びに地方局建設部（土木事務所及びダム管理事務所を含む。）に勤務する職員	異常な自然現象により重大な災害が発生した場合等に警戒水位を超えている河川の堤防、通行が禁止されている区間の道路等の危険な区域において行われる次の作業 ①巡回監視 ②応急作業等	0 千円	①日額 480 円 ②日額 730 円

	当該作業等に従事する職員	①東京電力株式会社福島第一原子力発電所の敷地内において行う作業 ②原子力災害対策特別措置法第28条第2項において読み替えて適用される災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第63条第1項の規定に基づく警戒区域において行う作業 ③本部長指示により居住者等が避難のための立退き若しくは計画的な立退きを行うこととされた地域において行う作業 ④原子力災害対策特別措置法第15条第3項の規定に基づき居住者等が屋内への退避を行うこととされた区域の屋外において行う作業 ⑤帰還困難区域において行う作業 ⑥居住制限区域において行う作業	3,234 千円	①日額 20,000 円～3,300 円 ②屋外作業 日額 6,600 円 屋内作業 日額 1,330 円 ③屋外作業 日額 5,000 円 屋内作業 日額 1,000 円 ④日額 2,500 円 ⑤屋外作業 日額 6,600 円 屋内作業 日額 1,330 円 ⑥屋外作業 日額 3,300 円 屋内作業 日額 660 円
	東日本大震災に対処するため当該作業に従事する職員	異常な自然現象により重大な災害が発生した場合等に警戒水位を超えている河川の堤防、通行が禁止されている区間の道路等の危険な区域において行われる次の作業 ①巡回監視 ②応急作業等	0 千円	①日額 480 円 ②日額 730 円
食鳥検査業務従事職員の特殊勤務手当	食肉衛生検査センターに勤務する職員	食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律による食鳥検査業務	9 千円	日額 1,180 円
特殊自動車運転作業手当	農業大学校及び農林水産研究所（水産研究センターを除く。）並びに東予地方局産業経済部今治支局地域農業室、中予地方局産業経済部産業振興課地域農業室及び南予地方局産業経済部産業振興課地域農業室に勤務する職員	大型特殊自動車等の運転作業	697 千円	日額 290 円
兼務手当	当該業務に従事する教育職員	定時制の課程の授業又は補助の業務（本務として従事する業務を除く。）	959 千円	1 時間 510 円、610 円又は 670 円
添削手当	当該業務に従事する教育職員	通信制の課程を担当して行う添削指導業務（本務として従事する業務を除く。）	15 千円	添削 1 回 110 円

教員特殊業務手当	当該業務に従事する教育職員（職務の級が中学校・小学校教育職員給料表又は高等学校等教育職員給料表の1級、2級又は特2級のものに限る。）	①非常災害時における児童等の保護又は緊急の防災等の業務 ②児童等の負傷、疾病等に伴う救急の業務等 ③修学旅行等引率業務 ④対外運動競技等において児童等を引率して行う指導業務（泊を伴うもの等） ⑤部活動における児童等に対する指導業務（週休日、休日等に行うもの） ⑥入学試験における受験生の監督等の業務（週休日、休日等に行うもの）	492,995 千円	①日額 6,400 円 ②日額 6,000 円 ③日額 3,400 円 ④日額 3,400 円 ⑤日額 2,400 円 ⑥日額 900 円
多学年学級担当手当	公立の小学校又は中学校の2の学年の児童等で編制されている学級を担当する教育職員（一定以上の授業時間数の者に限る。）	当該多学年学級における授業又は指導業務	8,970 千円	日額 290 円
教育業務連絡指導手当	教務主任、学年主任、生徒指導主事等	教務その他の教育に関する業務についての連絡調整及び指導助言の業務	109,370 千円	日額 200 円
面接指導手当	当該業務に従事する教育職員	講師として通信制の課程の授業又はその補助を行う業務（本務として従事する業務を除く。）	40 千円	1 時間 760 円
特別支援教育手当	特別支援学校に勤務する教育職員及び特別支援学級等を担当する教育職員	障害のある幼児、児童又は生徒に対する授業又は指導業務	312,775 千円	日額 1,000 円又は1,200 円
道路上作業手当	地方局建設部又は土木事務所に勤務する技能労務職員	交通遮断することなく行う道路の維持修繕、舗装の打換え等の作業	4,473 千円	日額 300 円
家畜ふん尿処理作業手当	農林水産研究所畜産研究センターに勤務する技能労務職員	たい肥舎等において行う有害物の発生を伴う家畜ふん尿の処理作業	113 千円	日額 290 円

注 手当ごとの「支給実績（平成25年度）」は、給与システムによる支給分であるため、その合計は「支給実績（平成25年度決算）」と一致しません。

(5) 超過勤務手当

支給実績（平成25年度決算額）	3,143,888 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成25年度決算）	477 千円
支給実績（平成24年度決算額）	3,391,052 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）	510 千円

注1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含んでいます。

2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成○年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含んでいます。

(6)その他の手当(平成 26 年4月1日現在)

手当名	内容	支給単価	国の制度との異 同	国の制度と異なる内容	支給実績 (25 年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (25 年度決算)
扶 養 手 当	扶養親族のある職員に支給	・ 配偶者 13,000円 ・ 配偶者以外 6,500円 ・ 配偶者のない職員の扶養親族のうち1人 11,000円 〔満 15 歳に達する日後の最初の年度初めから満 22 歳に達する日以降の最初の年度末までの子 1 人につき5,000円加算〕	同	—	千円 2,328,896	円 246,601
住 居 手 当	自ら居住するための住宅等を借り受け、家賃等を支払っている職員等に支給 (経過措置) 平成 26 年度まではその所有に係る住宅に居住する職員で世帯主である者等にも支給	【借家・借間居住者】 ・ 家賃 23,000 円以下 家賃額－12,000 円 ・ 家賃 23,000 円超 55,000 円未満 (家賃額－23,000円)×1/2＋11,000円 ・ 家賃 55,000 円以上 27,000円(支給限度額)	同	—	千円 1,383,152	円 124,072
		【持家居住者】(経過措置) 2,500 円	異	国支給なし		
初 任 給 調 整 手 当	医師等採用による欠員の補充が困難である職に採用された職員等に支給	採用困難の程度等を考慮して定める職の区分及び採用の日以後の期間の区分に応じて支給 上限額：410,900 円	同	—	千円 63,147	円 1,372,761
通 勤 手 当	通勤のため、交通機関等を利用している職員又は自動車等を使用している職員等に支給	【公共交通機関利用者】 6 箇月定期等廉価な価額による運賃等相当額 上限額：78,000 円	異	国上限額 55,000 円	千円 1,653,424	円 111,695
		【交通用具利用者】 距離に応じた定額 片道 2 km以上 5 km未満2,500 円 ～ 片道95km 以上 47,200 円	異	国上限額 24,500 円		
単身赴任手当	公署を異にする異動等に伴い単身で生活することとなった職員に対して支給	23,000 円＋加算額 加算額は、配偶者住居との距離に応じて 6,000～45,000 円	同	—	千円 145,705	円 318,829
管 理 職 手 当	管理又は監督の地位にある職員に対して支給	給料表別、職務の級別、区分別の定額	同	—	千円 1,255,155	円 611,376
特 地 勤 務 手 当 及 び 特 地 勤 務 手 当 に 準 ず る 手 当	離島その他の生活の著しく不便な地に所在する公署等に勤務する職員に支給	給料及び扶養手当の月額に対して、100分の2から100分の21までの範囲で、公署の区分に応じた一定率を乗じた額	同	—	千円 24,040	円 200,333
へき地手当及びへき地手当に準ずる手当	へき地学校等に指定された学校に勤務する教育職員に対して支給	給料及び扶養手当の月額に対して、100分の2から100分の21までの範囲で、学校の区分に応じた一定率を乗じた額			千円 137,492	円 275,535
定 時 制 通 信 教 育 手 当	県立の高等学校で本務として定時制教育又は通信教育に従事する教育職員等に支給	給料月額に 100 分の 5 から 100 分の 7 を乗じた額 (管理職手当との併給調整あり。)			千円 30,985	円 295,095

産業教育手当	県立の高等学校で農業、水産又は工業に係る産業教育に従事する教育職員に支給	給料月額に 100 分の 7 を乗じた額 (管理職手当等との併給調整あり。)			千円 102,119	円 303,024
義務教育等 教員特別手当	小学校、中学校又は 県立学校に勤務する 教育職員に支給	上限額：8,000 円 職務の級号給に応じた定額 (産業教育手当等との併給調整あり。)			千円 793,195	円 69,860
農 林 漁 業 普及指導手当	農林漁業の普及指導 に関する事務に従事 する職員に支給	給料月額に 100 分の 6 を乗じた額			千円 46,949	円 244,526
宿 日 直 手 当	職員が正規の勤務時間外又は休日等に宿直又は日直をした場合に支給	4,200 円/1 回 ほか (勤務時間による増減あり。)	同	—	千円 444,725	円 239,099
管 理 職 員 特別勤務手当	管理職手当を支給される職員が週休日等に勤務した場合に支給	職責に応じて 4,000 円～12,000 円/1 回の定額 (6 時間を超える場合は加算あり。)	同	—	千円 25,840	円 226,667
夜 勤 手 当	正規の勤務時間として午後 10 時から翌日の午前 5 時までの間に勤務する職員に支給	勤務 1 時間につき、1 時間当たりの給与額に 100 分の 25 を乗じた額	同	—	千円 131,926	円 157,995
休 日 給	休日等における正規の勤務時間中に勤務した職員に支給	勤務 1 時間につき、1 時間当たりの給与額に 100 分の 135 を乗じた額	同	—	千円 526,367	円 286,692

注 支給単価のうち、特に記載の無いものは月額の単価です。

5 特別職の報酬等の状況（平成 26 年 4 月 1 日現在）

特別職の職員の給料月額又は報酬月額、期末手当の支給割合及び退職手当の算定方式等は、以下のとおりです。

区 分		給 料 月 額 等		
給 料	知 事	990,000 円	(1,320,000 円)	
	副 知 事	858,500 円	(1,010,000 円)	
報 酬	議 長	921,500 円	(970,000 円)	
	副 議 長	826,500 円	(870,000 円)	
	議 員	779,000 円	(820,000 円)	
期 末 手 当	知 事	(平成 25 年度支給割合)		
	副 知 事	2.95 月分		
	議 長	(平成 25 年度支給割合)		
	副 議 長 議 員	2.95 月分		
退 職 手 当		(算定方式)	(1 期の手当額)	(支給時期)
	知 事	132 万円×在職月数×0.5	3,168 万 0 千円	任期毎
	副 知 事	101 万円×在職月数×0.38	1,842 万 2 千円	任期毎

- 注 1 給料月額及び報酬月額は、知事等及び職員の給与の特例に関する条例（平成18年愛媛県条例第 6 号）及び愛媛県議会議員の議員報酬の特例に関する条例（平成19年愛媛県条例第 37 号）に基づき、それぞれ知事 25%、副知事 15%、議長、副議長及び議員 5 %の減額をした後の額であり、（ ）内の金額は、減額前の額を記載しています。
- 2 退職手当の「1 期の手当額」は、4 月 1 日現在の給料月額及び支給率に基づき、1 期（4 年＝48 月）勤めた場合における退職手当の見込額です。

6 職員数の状況

平成 25 年及び平成 26 年の各年の 4 月 1 日現在の部門別職員数の状況と平成 26 年の職員数の主な増減理由、年齢別職員構成の状況並びに過去 5 年間の職員数の推移は、以下のとおりです。

(1) 部門別職員数の状況と平成 26 年の職員数の主な増減理由

(各年 4 月 1 日現在)

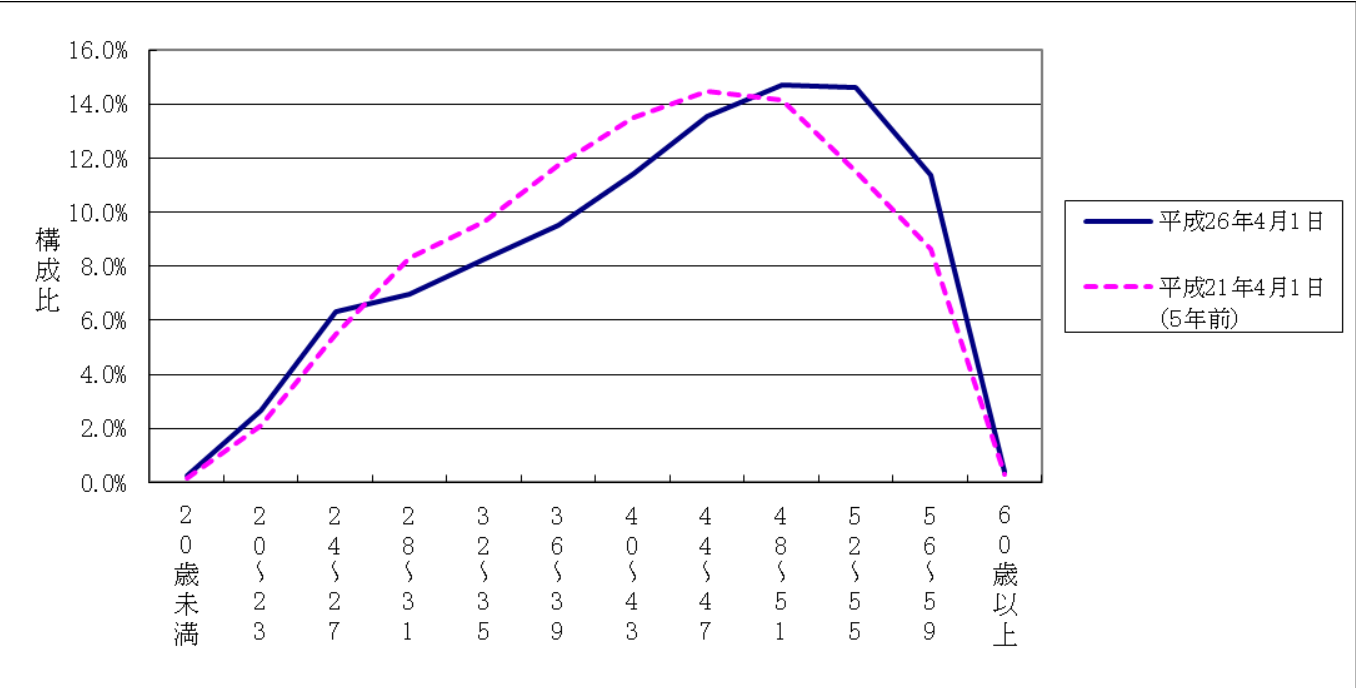
		職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由
		平成 25 年	平成 26 年		
一 般 行 政 部 門	議 会	30	29	△1	
	総務企画	610	621	11	国体準備業務の増
	税 務	191	182	△9	業務執行体制の効率化
	民 生	344	345	1	子ども・子育て支援新制度対応
	衛 生	483	473	△10	看護専門学校の民間委譲
	労 働	86	85	△1	
	農林水産	1,020	1,016	△4	業務執行体制の効率化
	商 工	196	201	5	営業機能の強化、瀬戸内しまのわ 2014 実施体制の強化
	土 木	805	798	△7	業務執行体制の効率化
	小 計	3,765 [135]	3,750 [148]	△15 [13]	
特 別 行 政 部 門	教 育	12,392	12,259	△133	児童生徒数の減少による教職員の減
	警 察	2,792	2,807	15	法令基準の充足による警察官の増
	小 計	15,184 [177]	15,066 [215]	△118 [38]	
公 営 企 業 部 門		1,991 [16]	1,991 [17]	±0 [1]	
合計		20,940 [328]	20,807 [380]	△133 [52]	
(条例定数)		(21,980)	(21,852)	(△128)	

注 1 職員数は、一般職に属する職員数であり、地方公務員の身分を保有する休職者及び派遣職員を含み、臨時又は非常勤の職員は含まれていません。

2 [] 内は、再任用短時間職員の数であり、外書きです。

3 一般行政部門には、知事の事務部局（公立大学法人愛媛県立医療技術大学への派遣職員を除く。）のほか、人事委員会、議会、監査委員及び労働委員会の事務部局が含まれています。

(2)年齢別職員構成の状況(平成26年4月1日現在)



区分	20歳未満	20歳～23歳	24歳～27歳	28歳～31歳	32歳～35歳	36歳～39歳	40歳～43歳	44歳～47歳	48歳～51歳	52歳～55歳	56歳～59歳	60歳以上	計
職員数(人)	54	549	1,311	1,453	1,722	1,983	2,371	2,819	3,064	3,039	2,364	78	20,807
構成比	0.3%	2.6%	6.3%	7.0%	8.3%	9.5%	11.4%	13.5%	14.7%	14.6%	11.4%	0.4%	100.0%

(3)職員数の推移

(単位：人・%)

部門別 \ 年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	過去5年間の増減数(率)
一般行政	3,982	3,894	3,861	3,795	3,765	3,750	▲232 (▲5.8%)
教育	13,046	12,782	12,707	12,532	12,392	12,259	▲787 (▲6.0%)
警察	2,785	2,794	2,776	2,797	2,792	2,807	22 (0.8%)
消防							
普通会計計	19,813	19,470	19,344	19,124	18,949	18,816	▲997 (▲5.0%)
公営企業等会計計	2,070	2,013	2,002	1,997	1,991	1,991	▲79 (▲3.8%)
総合計	21,883	21,483	21,346	21,121	20,940	20,807	▲1,076 (▲4.9%)

注 各年における定員管理調査において報告した部門別職員数です。

7 公営企業職員の状況

(1) 電気事業

県営電気事業は、昭和 28 年 10 月 7 日の営業開始以来 61 年を経過し、現在、銅山川第一発電所（2 基）、同第二発電所、同第三発電所、富郷発電所、肱川発電所、道前道後第一発電所、同第二発電所及び同第三発電所の合計 8 発電所（9 基）において、最大出力 67,000 キロワットで営業しています。

①職員給与費の状況

決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める職員 給与費比率 B/A	(参考)平成 24 年度の総費 用に占める職員給与費比率
平成 25 年度	千円 1,920,663	千円 684,831	千円 373,298	% 19.4	% 17.5

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府 県平均一人当 たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
平成 25 年度	人 57	千円 213,232	千円 76,561	千円 83,505	千円 373,298	千円 6,549	千円 6,630

注 1 決算には、消費税を含んでいません。

2 職員給与費とは、職員に対して支給される給料及び扶養手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、期末・勤勉手当等の諸手当に要する経費であり、退職手当に要する経費は、含んでいません。

3 職員数は平成 26 年 3 月 31 日現在の人数です。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(平成 26 年4月1日現在)

県営電気事業に従事する平成 26 年 4 月 1 日現在の職員数（再任用短時間勤務職員 1 人を含まない。）は、56 人であり、職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況は、以下のとおりです。

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
愛媛県公営企業 (電気事業)	43 歳 11 月	364,678 円	452,295 円 (568,742 円)
都道府県平均 (電気事業)	44 歳 8 月	356,756 円	— (560,123 円)

注 1 基本給とは、職員の給料、扶養手当及び地域手当の合算額の平均です。

2 平均月収額とは、職員の基本給と毎月支払われる住居手当、時間外勤務手当などの諸手当を合計したものの平均であり、（ ）内の金額は、期末・勤勉手当を含んだものです。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

愛媛県公営企業（電気事業）	愛 媛 県	都道府県平均（電気事業）
1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,606 千円	1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,572 千円	1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,550 千円
(平成 25 年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分	(平成 25 年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分	—

(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置	—
----------------------------------	----------------------------------	---

注 1 特定幹部職員(局長級以上の職員)については、期末手当のうち 0.4 月分を勤勉手当に振り替えているため、期末手当 2.20 月分、勤勉手当 1.75 月分となっています。

2 () 内の数値は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当(平成 26 年 4 月 1 日現在)

愛媛県公営企業(電気事業)	愛 媛 県	都道府県平均(電気事業)
(支給率) 自己都合 勸奨・定年 勤続 20 年 21.62 月分 27.025 月分 勤続 25 年 30.82 月分 36.57 月分 勤続 35 年 43.7 月分 52.44 月分 最高限度額 52.44 月分 52.44 月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた 8 段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から 60 月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置 (2～20%加算) 1 人当たり平均支給額 — 千円 — 千円	(支給率) 自己都合 勸奨・定年 勤続 20 年 21.62 月分 27.025 月分 勤続 25 年 30.82 月分 36.57 月分 勤続 35 年 43.7 月分 52.44 月分 最高限度額 52.44 月分 52.44 月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた 8 段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から 60 月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置 (2～20%加算) 1 人当たり平均支給額 6,546 千円 23,729 千円	1 人当たり平均支給額 14,011 千円

注 1 人当たり平均支給額は、平成 25 年度中に退職した職員に支給された額の平均です。

ウ 地域手当(平成 26 年 4 月 1 日現在)

支給対象職員は、いません。

エ 特殊勤務手当(平成 26 年 4 月 1 日現在)

支給実績(平成 25 年度決算)		52 千円		
支給職員 1 人当たり平均支給年額(平成 25 年度決算)		2,240 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合(平成 25 年度)		44.2%		
手当の種類(手当数)		2		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (平成 25 年度)	左記職員に対する支給単価
危険作業手当	発電所又は工業用水管理事務所に勤務する職員	①傾斜 30 度以上の水圧管施設工事及び内部工事の作業等 ②水圧鉄管充水中の水車ケーシング及びドラフトチューブの内部作業等 ③ずい道水圧管内における調査、測量作業等 ④地上又は水面上 10 メートル以上の墜落の危険が特に著しい箇所で行う工事の監督、調査等 ⑤金属ナトリウム、苛性アルカリ類、硝酸及び亜硝酸等を取扱う業務	千円 52	①日額 570 円 ②日額 400 円 ③日額 340 円 ④日額 220 円 ⑤日額 200 円

用地交渉等業務手当	公営企業管理局に勤務する職員	公共事業の施行に伴う土地等の取得及び権利の消滅等に伴う損失の補償等に関し、これらの権利者等と直接現地で行う交渉業務	千円 0	日額 650 円
-----------	----------------	---	---------	----------

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成 25 年度決算）	48,161 千円
職員 1 人当たり平均支給年額（平成 25 年度決算）	1,120 千円
支給実績（平成 24 年度決算）	38,424 千円
職員 1 人当たり平均支給年額（平成 24 年度決算）	937 千円

注 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含んでいます。

2 職員 1 人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成○年度決算）」と同じ年度の 4 月 1 日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含んでいます。

カ その他の手当（平成 26 年 4 月 1 日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (25 年度決算)	支給職員 1 人当たり 平均支給年額 (25 年度決算)
扶 養 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 9,550	円 258,095
住 居 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 6,035	円 137,168
通 勤 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 3,029	円 70,434
単身赴任手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 1,248	円 312,000
管 理 職 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 5,836	円 648,416
特 地 勤 務 手 当 及び特 地 勤 務 手 当 に 準 ず る 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 193	円 193,104
宿 日 直 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 0	円 0
管 理 職 員 特 別 勤 務 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 0	円 0
夜間勤務手当	一般行政職の夜勤手当の制度と同じ。	同	—	千円 2,451	円 245,063

(2) 工業用水道事業

県営工業用水道事業は、昭和 39 年 4 月 1 日の営業開始以来 51 年を経過し、現在、松山・松前地区工業用水道、今治地区工業用水道、西条地区工業用水道の 3 地区において、計画給水量 249,220 立方メートルで営業しています。

①職員給与費の状況

決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める職員 給与費比率 B/A	(参考)平成 24 年度の総費 用に占める職員給与費比率
平成 25 年度	千円 1,081,967	千円 349,250	千円 137,724	% 12.7	% 15.0

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考)都道府 県平均一人当 たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
平成 25 年 度	人 22	千円 86,565	千円 18,203	千円 32,956	千円 137,724	千円 6,260	千円 6,337

注 1 決算には、消費税を含んでいません。

2 職員給与費とは、職員に対して支給される給料及び扶養手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、期末・勤勉手当等の諸手当に要する経費であり、退職手当に要する経費は、含んでいません。

3 職員数は平成 26 年 3 月 31 日現在の人数です。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(平成 26 年4月1日現在)

県営工業用水道事業に従事する平成 26 年 4 月 1 日現在の職員数（再任用短時間勤務職員 3 人を含まない。）は、19 人であり、職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況は、以下のとおりです。

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
愛媛県公営企業 (工業用水道事業)	48 歳 0 月	397,576 円	459,294 円 (586,019 円)
都道府県平均 (工業用水道事業)	45 歳 4 月	343,373 円	— (528,594 円)

注 1 基本給とは、職員の給料、扶養手当及び地域手当の合算額の平均です。

2 平均月収額とは、職員の基本給と毎月支払われる住居手当、時間外勤務手当などの諸手当を合計したものの平均であり、（ ）内の金額は、期末・勤勉手当を含んだものです。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

愛媛県公営企業（工業用水道事業）	愛 媛 県	都道府県平均（工業用水道事業）
1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,498 千円	1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,572 千円	1 人当たり平均支給額（平成 25 年度） 1,475 千円
（平成 25 年度支給割合） 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分	（平成 25 年度支給割合） 期末手当 2.60 月分 (1.45) 月分 勤勉手当 1.35 月分 (0.65) 月分	—
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置	—

注 1 特定幹部職員(局長級以上の職員)については、期末手当のうち 0.4 月分を勤勉手当に振り替えているため、期末手当 2.20 月分、勤勉手当 1.75 月分となっています。

2 () 内の数値は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当 (平成 26 年 4 月 1 日現在)

愛媛県公営企業 (工業用水道事業)	愛 媛 県	都道府県平均 (工業用水道事業)
(支給率) 自 己 都 合 勸奨・定年 勤 続 20 年 21.62 月分 27.025 月分 勤 続 25 年 30.82 月分 36.57 月分 勤 続 35 年 43.7 月分 52.44 月分 最高限度額 52.44 月分 52.44 月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた 8 段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から 60 月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置 (2 ～ 20% 加算) 1 人当たり平均支給額 － 千円 － 千円	(支給率) 自 己 都 合 勸奨・定年 勤 続 20 年 21.62 月分 27.025 月分 勤 続 25 年 30.82 月分 36.57 月分 勤 続 35 年 43.7 月分 52.44 月分 最高限度額 52.44 月分 52.44 月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた 8 段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から 60 月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置 (2 ～ 20% 加算) 1 人当たり平均支給額 6,546 千円 23,729 千円	1 人当たり平均支給額 9,706 千円

注 1 人当たり平均支給額は、平成 25 年度中に退職した職員に支給された額の平均です。

ウ 地域手当 (平成 26 年 4 月 1 日現在)

支給対象職員は、いません。

エ 特殊勤務手当 (平成 26 年 4 月 1 日現在)

支給実績 (平成 25 年度決算)		40 千円		
支給職員 1 人当たり平均支給年額 (平成 25 年度決算)		2,508 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合 (平成 25 年度)		72.7%		
手当の種類 (手当数)		2		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (平成 25 年度)	左記職員に対する支給単価
危険作業手当	発電所又は工業用水管理事務所に勤務する職員	①傾斜 30 度以上の水圧管施設工事及び内部工事の作業等 ②水圧鉄管充水中の水車ケーシング及びドラフトチューブの内部作業等 ③ずい道水圧管内における調査、測量作業等 ④地上又は水面上 10 メートル以上の墜落の危険が特に著しい箇所で行う工事の監督、調査等 ⑤金属ナトリウム、苛性アルカリ類、硝酸及び亜硝酸等を取扱う業務	千円 40	①日額 570 円 ②日額 400 円 ③日額 340 円 ④日額 220 円 ⑤日額 200 円

用地交渉等業務手当	公営企業管理局に勤務する職員	公共事業の施行に伴う土地等の取得及び権利の消滅等に伴う損失の補償等に関し、これらの権利者等と直接現地で行う交渉業務	千円 0	日額 650 円
-----------	----------------	---	---------	----------

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成25年度決算）	7,181 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成25年度決算）	422 千円
支給実績（平成24年度決算）	9,214 千円
職員1人当たり平均支給年額（平成24年度決算）	461 千円

注1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含んでいます。

2 職員1人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成○年度決算）」と同じ年度の4月1日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含んでいます。

カ その他の手当（平成26年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (25年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (25年度決算)
扶養手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 4,254	円 250,235
住居手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 1,140	円 67,059
通勤手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 1,635	円 96,166
単身赴任手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 828	円 276,000
管理職手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 3,104	円 620,858
特勤勤務手当及び特勤勤務手当に準ずる手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 0	円 0
宿日直手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 13	円 4,200
管理職員特別勤務手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 8	円 8,000
夜間勤務手当	一般行政職の夜勤手当の制度と同じ。	同	—	千円 0	円 0

(3) 病院事業

県営病院事業は、昭和 31 年 10 月 1 日県衛生部から移管を受けて以来 58 年を経過し、現在、中央、今治、南宇和及び新居浜の 4 病院で、病床数 1,659 床を有し、それぞれの地域における中核的医療機関として、その機能を発揮しています。

①職員給与費の状況

決算

区 分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める職員 給与費比率 B/A	(参考)平成 24 年度の総費 用に占める職員給与費比率
	千円	千円	千円	%	%
平成 25 年度	38,697,061	130,030	14,169,306	36.6	39.3

注 資本勘定支弁職員に係る職員給与費 19,061 千円を含んでいません。

区分	職員数 A	給 与 費				一人当たり 給与費 B/A	(参考) 都道 府県平均一人 当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B		
	人	千円	千円	千円	千円	千円	千円
平成 25 年度	1,959	7,083,455	4,371,432	2,733,480	14,188,367	7,243	7,164

注 1 決算には、消費税を含んでいません。

2 職員給与費とは、職員に対して支給される給料及び扶養手当、住居手当、通勤手当、時間外勤務手当、期末・勤勉手当等の諸手当に要する経費であり、退職手当に要する経費は、含んでいません。

3 職員数は平成 26 年 3 月 31 日現在の人数です。

②職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況(平成 26 年4月1日現在)

県営病院事業に従事する平成 26 年 4 月 1 日現在の職員数（再任用短時間勤務職員 13 人を含まない。）は、1,916 人であり、職員の平均年齢、基本給及び平均月収額の状況は、以下のとおりです。

区 分	平 均 年 齢	基本給	平均月収額
愛媛県			
医 師	44 歳 5 月	577,977 円	1,415,683 円 (1,576,413 円)
看 護 師	38 歳 9 月	312,316 円	399,134 円 (499,869 円)
事務職員	45 歳 8 月	374,165 円	540,004 円 (659,993 円)
都道府県平均			
医 師	44 歳 4 月	549,674 円	— (1,362,706 円)
看 護 師	38 歳 4 月	294,335 円	— (470,287 円)
事務職員	43 歳 8 月	346,594 円	— (557,877 円)

注 1 基本給とは、職員の給料、扶養手当及び地域手当の合算額の平均です。

2 平均月収額とは、職員の基本給と毎月支払われる住居手当、時間外勤務手当などの諸手当を合計したものの平均であり、（ ）内の金額は、期末・勤勉手当を含んだものです。

③職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

愛媛県公営企業（病院事業）	愛 媛 県	都道府県平均（病院事業）
1人当たり平均支給額（平成25年度） 1,396千円	1人当たり平均支給額（平成25年度） 1,572千円	1人当たり平均支給額（平成25年度） 1,419千円
（平成25年度支給割合） 期末手当 2.60月分 勤勉手当 1.35月分 （1.45）月分 （0.65）月分	（平成25年度支給割合） 期末手当 2.60月分 勤勉手当 1.35月分 （1.45）月分 （0.65）月分	—
（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置	（加算措置の状況） 職制上の段階、職務の級等による加算措置	—

注1 特定幹部職員（局長級以上の職員）については、期末手当のうち0.4月分を勤勉手当に振り替えているため、期末手当2.20月分、勤勉手当1.75月分となっています。

2 （ ）内の数値は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当（平成26年4月1日現在）

愛媛県公営企業（病院事業）	愛 媛 県	都道府県平均（病院事業）
（支給率） 自己都合 勤続20年 21.62月分 勤続25年 30.82月分 勤続35年 43.7月分 最高限度額 52.44月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた8段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から60月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置（2～20%加算） 1人当たり平均支給額 医師 2,574千円 32,939千円 看護師 2,498千円 20,510千円 その他 —千円 21,990千円	（支給率） 自己都合 勤続20年 21.62月分 勤続25年 30.82月分 勤続35年 43.7月分 最高限度額 52.44月分 その他の加算措置 退職手当の調整額 職務の級等の区分に応じた8段階の調整月額を定め、職員の在職期間のうちその月額が高い方から60月分の合計額を調整額として加算 定年前早期退職特別措置（2～20%加算） 1人当たり平均支給額 6,546千円 23,729千円	1人当たり平均支給額 6,590千円

注1 1人当たり平均支給額は、平成25年度中に退職した職員に支給された額の平均です。

2 1人当たり平均支給額のその他は、医師及び看護師を除くすべての職員です。

ウ 地域手当（平成26年4月1日現在）

支給実績（平成25年度決算）		233,610千円		
支給職員1人当たり平均支給年額（平成25年度決算）		834,320円		
区 分	支給対象地域	支給率	支給対象職員数	愛媛県の制度（支給率）
医 師		15%	272人	15%

注 支給対象職員数は、平成26年4月1日現在の職員数です。

エ 特殊勤務手当（平成26年4月1日現在）

支給実績（平成25年度決算）	449,750千円
支給職員1人当たり平均支給年額（平成25年度決算）	297,836円
職員全体に占める手当支給職員の割合（平成25年度）	74.8%
手当の種類（手当数）	9

手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	支給実績 (平成 25 年度)	左記職員に対する支給単価
結核病とう勤務手当	病院の結核病棟に勤務する職員	病院の結核病棟において行う患者の看護又は患者に接する職務	千円 371	日額 290 円
病理細菌取扱手当	病院の試験室等において病理又は危険である細菌の検査研究等に従事する職員	病院の試験室等において行う病理又はコレラ、赤痢等危険である細菌の検査、研究等	千円 3,364	日額 200 円
放射線技術勤務手当	放射線技術又はその補助に従事する職員	病院において行う有害放射線の影響を受ける作業	千円 7,678	日額 230 円
伝染病医療従事手当	病院において伝染病患者等の診療、看護等に従事する職員	伝染病患者等の診療又は看護 伝染病菌の付着した物件等の処理作業	千円 430	日額 290 円
精神病棟等勤務手当	病院の精神病棟又は精神科に勤務する職員	精神病患者等の看護又はこれらの者に接する業務	千円 91	日額 320 円
夜間看護等手当	①病院で深夜に勤務する看護師等 ②③病院に勤務する医療職給料表の適用を受ける職員	①正規の勤務時間による勤務の一部又は全部が深夜(午後 10 時から翌日の午前 5 時までの間)において行われる看護等の業務 ②救急患者に対処するために命を受け自宅等でする待機 ③待機中に呼出しを受け、正規の勤務時間以外の時間において行った手術等の業務	千円 363,753	① 1 回 2,000 円から 3,300 円まで ② 1 回 860 円 ③ 1 回 1,620 円
航空手当	航空機に搭乗して診療、調査等の業務に従事する職員	航空機に搭乗して行う診療、看護、調査、捜索救難等の業務	千円 72	1 時間 1,900 円
救急医療従事手当	病院に勤務する管理職医師	正規の勤務時間外において行う救急医療業務	千円 27,766	1 時間当たりの給与額×従事時間
診療応援手当	病院に勤務する医師	他の県立病院等で従事する診療業務	千円 46,260	1 回 5,000 円から 20,000 円

注 手当ごとの「支給実績（平成 25 年度）」は、給与システムによる支給分であるため、その合計は「支給実績（平成 25 年度決算）」と一致しません。

オ 時間外勤務手当

支給実績（平成 25 年度決算）	1,771,239 千円
職員 1 人当たり平均支給年額(平成 25 年度決算)	948 千円
支給実績（平成 24 年度決算）	1,728,753 千円
職員 1 人当たり平均支給年額(平成 24 年度決算)	925 千円

注 1 時間外勤務手当には、休日勤務手当を含んでいます。

2 職員 1 人当たり平均支給額を算出する際の職員数は、「支給実績（平成○年度決算）」と同じ年度の 4 月 1 日現在の総職員数（管理職員、教育職員等、制度上時間外勤務手当の支給対象とはならない職員を除く。）であり、短時間勤務職員を含んでいます。

カ その他の手当（平成 26 年 4 月 1 日現在）

手当名	内容及び支給単価	一般行政職の制度との異同	一般行政職の制度と異なる内容	支給実績 (25 年度決算)	支給職員 1 人当たり 平均支給年額 (25 年度決算)
扶養手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 163,634	円 211,413

住 居 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 217,554	円 173,212
通 勤 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 113,761	円 82,751
単身赴任手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 9,085	円 302,833
管 理 職 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 54,154	円 917,858
初 任 給 調 整 手 当	内容は、一般行政職の制度と同じ。 支給単価は、一般行政職の制度に加え、 医師について次の額を支給。 ・職務の級に応じ 24,000 円又は 30,000 円 (南宇和病院に勤務する医師は 124,000 円又 は 130,000 円)	異	医 師 へ の 加 算	千円 958,919	円 3,424,712
宿 日 直 手 当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 195,842	円 380,403
管 理 職 員 特別勤務手当	一般行政職の制度と同じ。	同	—	千円 13,162	円 190,754
夜間勤務手当	一般行政職の夜勤手当の制度と同じ。	同	—	千円 183,652	円 176,250